

♪ 2016年度 **poco a poco** ♪

Nr. 15 2017年2月1日(水) 文責: プファイル・辰巳

光陰矢の如し・・・

ついこの間新年を迎えたと思ったら、もう1か月・・・1年の12分の1・・・が、終わってしまいました。ただでさえ短い3学期が、さらに短く感じられる今日この頃です。小学部のもちつき大会、中学部の外国語弁論大会、そして全校をあげての書き初め展・・・、行事も飛ぶように過ぎていきます。

今日は小学部の「なわとび大会」もありますね。2月は「小の月」の中でも、一番短い月です。こんなふうにとくとくと、なんだか焦ってしまいますが、気は落ち着けて、学年の締めくくりをしっかりとりたいものです。そして、卒業式・修了式までの短い日々を充実させましょう！



くあの町、この町、音楽家が住んだ町 ㊦

ベートーヴェンが生まれ、

シューマンが亡くなった町 **Bonn**>

ボンにあるベートーヴェンの生家は有名で、フランクフルトからもそう遠くはないので、訪れた方も多いのではないでしょうか。

ボンは、ライン河沿いに位置し、ローマ時代から栄えた町で、現在は人口約30万人。ドイツでは20番目に大きな町だそうです。1818年には大学も設立されました。第2次世界大戦後、東西ドイツに分断されていた時代には、このさほど大きくない町が首都となり、政府の機関が集まっていた。東西ドイツ統一後、ベルリンが首都に戻った後も、いくつかの政府機関はボンに残されたまま、その役割を果たしています。

代には、このさほど大きくない町が首都となり、政府の機関が集まっていた。東西ドイツ統一後、ベルリンが首都に戻った後も、いくつかの政府機関はボンに残されたまま、その役割を果たしています。



ルードヴィッヒ・ファン・ベートーヴェンは1770年にこの町に生まれ、20代でウィーンに移住するまで暮らしていました。生家は戦火を潜り抜け、1889年からベートーヴェン記念館として保存され、改築、増築が繰り返され、現在も博物館として公開されています。ベートーヴェンの直筆楽譜や手紙、使用していた楽器などが展示されています。

このようにベートーヴェンの生まれ故郷として有名なボンですが、この町でその生涯を終えた作曲家もいました。ロベルト・シューマン(1810-1856)です。1854年にライン河に身投げするという自殺未遂を犯したシューマンは、その後2年間、現在はボンに吸収されたエンデニヒにあった神経科の病院に収容され、1856年に息を引き取るまでそこで過ごしました。

この病院はシューマンが亡くなった後も長らく病院と人ホームとして使われていました。一時取り壊しの危機ありましたが、1963年に改築され、音楽図書館・博物館しました。シューマンの亡くなった場所というだけでなく、現在この「シューマンハウス」は、作曲家・音楽評論家シューマンの音楽や書評に出会える場所として注目されています。

エンデニヒの病院で息を引き取ったロベルト・シューマン、その妻で、自らもピアニスト・作曲家として、夫ロベルトの死後も活躍し、フランクフルトに長く住んでいたクララ・シューマン。この夫妻はボンの Alter Friedhof (古い墓地) にそろって埋葬されています。



老あま

ちょっとだけ 演奏会情報

フランクフルト カイザードームのパイプオルガンコンサート
2月17日(金) 20時から
ヴィヴァルディ、ヘンデル、サン・サーンスの作品など

フランクフルト 市立歌劇場の2月の演目より
モーツァルトのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」
2月4日(土) 19時から
2月12日(日) 19時から
2月18日(土) 19時から
2月22日(水) 19時から

